明治二十年四月廿三日刊行
遞信省認可

女學雜誌

每土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送税

第六拾壹號

東京 女學雜誌社

WASON
HQ
1104
J74 +
CORNELL UNIVERSITY LIBRARY
Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 61. April, 23rd 1887.

第六拾壹號

EDITORIAL:—Co-Education of the Sexes.

LEADING ARTICLES:—Duties of "W. C. T. U.," by Rev. Mr. N. Tamura; The Christian Education of Woman, by Mrs. Knox (concluded); Voluntary Marriage, by Senator S. Nishimura (concluded).

MISCELLANIES:—The Foreign Style of Hair-Dressing; Western Ladies' Etiqutte; Lecture for a Bachelor.

BIOGRAPHIES:— Lucy Hutchinson (concluded); Mrs. Margaret Bright; Miss Fuji Lady Jane Grey.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

SUPPLEMENT:—The Prize Essays on "Japanese Women's Property."

●社說　男女共學の可否

●論說　田村直臣君演說（婦人矯風會員の責任）筆記○ノックス夫人基督敎主義女子敎育論（四）○西村茂樹君男女相擇の說（七）

●叢話　束髮の事○西洋女禮式の心得○白身先生の僮兒

●佳傳　ルシーハッチンソン夫人（二）○ブライト夫人の肖像○忠貞不二秘錄○ジヤングレー姫

●寄書　山家鶯（鳥居忱）○高崎女子の友の祝歌○高崎前橋連合婦人親睦會の祝歌

●雜報　十四件　●廣告

●第四回懸取文始末附錄の三

●珊瑚の珠（第三十回）

○故人とありたる婦女方の人名と略傳と年代とを大日本人名辭書中より取調べたるまゝ左に揭く（人名イロハ順）

古今女子人名略表（一）

遊の方	將軍家重に愛せらる	寛政元年卒
伊香色謎	開化帝の后	
伊賀局	楠正儀に嫁す	
伊岐氏	二條帝の宮人	
幾子女王	商覺眞如と號す、法女たり	明和元年薨
五十琴姫	景行帝の妃	
石川朝	命婦にして和歌を善くす	
石川刀子娘	宮嬪にして後ち貶さる	和銅の頃
石寸名	蘇我稻目の女、宮嬪たり	用明帝元年の頃
石姫	欽明帝の皇后	
五十鈴依媛	綏靖帝の皇后	
伊勢大輔	宮女にして和歌を善す	
伊勢繼子	平城帝の皇妃	
五十河姫	景行帝の皇妃	

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第六拾壹號

明治二十年四月廿三日

●社説

○男女共學の可否

日本教育會の會員諸君は近頃の例會に於て男女共學の可否を討論されぬ此問題は素と數月前の提出に係る者なれば世人は久しく其討論の摸様如何あらんと掛念したるに新聞紙の報ずる所によれば當日の議論甚だ盛んにして可否の決遂に定らざれば止を得ず之を次會に至る迄延引さるゝことと相成れりと聞く吾人は其日の集會に列せず不幸にして博識ある會員諸君の議論を承はらざれば此際敢て此に卑見の大略を陳べて右問題に關し吾人が自ら責任とする所を盡すは甚だ當然の事なりと信ぜり

抑も男女共學の議に關しては歐米に於て夙に其可否を論ずるものあり二三年前に至る迄で尚ほ双方の優劣を辨ずる能はざるものもありしが今日となりては既に其事定り最早彼此と申す者も餘りに聞及ばざる次第となれり然るを今ま我國の教育會に於て其燼餘を燃し復び之を論辨するの勞を取られんとには先づ我國現今の景況歐米に於けるが如きにあらずと云へる一事の存せざる限りは其事全く無用の辨とは相成まじき歟密かに顧慮する所のものあり然るに我國教育の地位は言に及ばず男女交際の關係にても現に歐米に行はるゝ有様に及ばざるは勿論なりと雖も此男女共學の可否を論ずるに當りては此等の相違も餘り注意を要すべき事件にあらず特に歐米に於て此新制を主張したる時亦東西一轍の反對論數多起生したる趣を思ひ合はする時は我國當今の教育界に立て此問題を論ずる者は先づ歐米に於ける男女共學の決果何如を證明するを以て尤も勢力ある論辨と爲すとならん

抑も男女共學の制に付て世人が掛念する所は大抵三種に別つを得べし第一に女子は身躰甚だ弱き者なれば之に男子同樣の教育を受けしむる時は其健康甚だ覺束なしと云ふものあり是れ蓋し其躰力を憂慮するものなり第二に女子の智力は尚甚だ足らざる所あれば之に男子同樣の學文を修めしむるとは中々に困難あるのみか之が爲に延いて男子の教育をも低きくするの弊ありては莫大の損ありと云ふものあり是れ蓋し其智力を心配するものならん第三に男女双方を同一の學校に置て終日相ひ接近せしむる時は其間自然に不清潔の交際を醸して遂に宜しからざる風儀を生ずるのみか男子は女らしく女は男らし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くありて双方共に弊害を崇るべしと云ふものあり是れ蓋し其德行を掛念するものならん共學の議に關する反對論雜多にして一々數へ難しと雖も之を要する時は即ち以上躰、智、德三點の上に於て之を總括するを得べき也

然るに歐米諸國に於て多年の間に經驗する所に據れバ幸にして右樣の掛念は全く無用に屬するが如し其實證歷々として既に世に明なるとあれども今試に米國に於ける數個の事例を擧て其一斑を示さんに先づ女子の躰力之が爲に損害を崇るべしと云へる第一の異議に對してはチペリン大學の校長フエアチヤイルド氏、ボストン大學の校長ワルレン氏、ミシガン大學の校長アンゲル氏、セントラウレンス大學の敎授リー氏、ヰスコンシンの校長バスコム氏等の報告は一々之に確答を呈する者と云ふべし蓋し此等の諸氏ハ其初大抵同樣の掛念を抱きて心中密に共學の不可あるとを思慮したるものと雖も自ら校務を監督して多年實際に其學の決果を窺ひたる後ち孰れも皆な此制の効能預想の外にあるとを悟りたりと云へり吾人一々其報告の文辭を示すを得バ甚だ愉快の事なりと雖も今ま止を得ず全く之を略せざるを得ず但だ思ふに若し敎育の理に從つて科程を定め暴りに智性を勞せしめずして併て躰力を養ふの工夫を爲さバ女性必しも男子と共に學び難きにあらざるべしとの一事は容易に吾等の承知すべきものなるべし。次に女子智力の進步は到底男子と同行すべきにあらずと云へる第二の異議に對してハ亦たコーチル大學の校長ホワイト氏、チペリン大學の校長フエアチヤイルド氏、アンチチークの校長エドワード、チルトン氏其外紐育セントラウレンス大學の役員、アイチア大學の校長マゴーン氏等の論證は一々之に確答を呈するものなり吾人は固より男女の性質少しく相異る所あるを信じ其智性の發達も亦多少の異途に趣くべきとを信じて敢て之を疑はざるのみか此點に關してハ少しく尋常の女權論者と意見を異にし一見守舊の僻あるの觀を爲す迄に至るものなりと雖も亦之が爲に大學に於て男女を合教するを不可とする理由の毛頭之れあらざるとを信ずるものあり蓋し大學の普通科は素と一個の人間が共に心得置くべき敎育を施すものにして其科目男女に依りて要不要あるべき者にあらざれバ此邊に於て男女の合教を否むべき片理だも存せざるを知るべし然らバ彼の大學內の高等科に至て夫々專門の學藝文學を修むるの有樣に就きて如何んと云ふに假令ひ男女元來各適する所の藝文を異にすとするも是は只だ彼此の長ずる所少か相違する迄にて其大

學を出るの後に於て實際優劣の結果を生ずるに止る大學の高等科に於て生徒に敎授する所のものハ要之が發達の方向を指し之が試驗の方法を敎ゆるに止るものとすれば茲に男女を合敎するの損失決して之れあらざるを見るあり智性上大學に於て男女を合敎するの不可なきと既に如此しとすれバ大學以下に行ふべき共學の制を此一點よりして異論するハ甚だ覺束なき反對と云ふべきものあらん但し此事も亦た空漠たる議論に止るを好まず前に揭げたる諸氏の報告を一覽して大學在留の間男女生徒の優劣如何んと省みるものあらバ大に悟る所あるべき也。然らバ共學の爲に男女の間に宜しからざる風儀を生じて雙方の品德を害するとなど有んやと云ふに如此き掛念を爲すものハ未だ男女交際の决果何物たるとを知らざる輩にして學生の人と爲りを輕ろしむること尤甚しきものと云べし抑も男女ハ之を隔離するといよ〳〵遠けれバ其相狎るゝの弊いよ〳〵近きを常とす唯だ之をして自由に相接近せしめて後ち初て淸潔の交際を其間に起生せしむるとを得る者あり之を以て米國の諸大學に初て男女の共學を許したる當初に於ては品行上の風儀之よりして如何あらんやなど憂慮したるもの甚だ多かりしにも係ハらず一度之れを試みたる後實際に其結果の現ハるゝ所を見れば之亦た預想の外に出でたりと云へり然ればヰスコンシン大學の校長は十年の經驗の後共學の制を以て少年娘輩の品行を養成するに於て非常の効能あるものと認めカンサス大學の校長は十六年間男女を合敎したるに此間一回だも世人の非難を蒙るべき不始末ありしとを證して此制の德義上に好結果を呈すべき所以を說明せり然るに又男女共學の爲に女は男らしくなり男ハ女らしくならんとの掛念を爲すものあらば之れ尤も笑ふべきものあり凡そ男女交際の摸樣に注意するものハ男ハ之が爲にいよ〳〵男らしくなり女性は之が爲に益す優美となりて雙方の德之よりして自然に發達するを見るべし吾人は女々しき氣なる男兒が女子と交際したるが爲に知らず識らず活潑の丈夫となりたるを實見したると多し思に彼の武張りたる細帶高袴の女生徒も若し男子と交際したらんには自ら淑雅の様姿をも得べきならん事理如此なるが故に此邊の心配を以て共學の事を不可とするハ世情を知らざるの暴言と見做すべき外なるべからず現に校長ホワイト氏ハ合敎を受たる女生徒ほど優美温和の諸德を備へたるものを見ずと云ひ校長フエアチヤイルド氏ハ亦た共學の爲に女子が男らしくならんと云へる謬說を辨じて之に反對すべき證跡數多を擧

たり如此して倘共學を以て德行の上に損害を及ぼす者ありと云はゞ之恰も無證據の暴論を述者として一笑に附すべき也。共學に關して世人が掛念する三種の憂は其殆んど無用に屬すべき所以大率ね右に述ぶる所の如し然るに共學の利は第一に經濟上に現はれ第二に男女の交際上に現はれ第三に女權伸張の上に現はれて其益の及ぶ所少からず故に苟くも此の三點の利益に注意するものは皆な必らず共學の制を賛成して其實行を祈るとならん之を以て米の合衆國の如きはミシガン、チベリン、井スコンシン、ボストン等の諸大學を初として外に倘ほ合敎を許す所甚多く英國に有觸たる有名の大學中にもチツクスフホルド、ロンドン、ギルトン、ソマービルなど云へる學校に於ては亦既に之を許可したり日耳曼の如きは今の文部卿の意見を以て政事上の都合よりして暫く女子の大學入校を禁制すると雖も之れ素と久しきに渉るべきものにあらず魯士亞の如きは尤も有名なる女秀才を多く大學中より出して女子がよく男子と共學するの明證を示せり今ま此等の諸國に倣ふて文明の地に進歩せんとし特に近來女權の伸張に盡力して婦女子の敎育に熱心あらんものは何人か男女を大學に合敎するとを不可とせんや吾人は此制に不同意を表するもの丶理論何如を知らんとを欲するものなり」或は云く敎育會に於て討論の問題としたるは小學校内に於て男女を合敎するの可否を問ふものありと嗚呼果して然る乎女子未だ女性を現ぜず男兒未だ甚しく女子と異らず兩性尤も相近似したるの童兒少女を同一の敎塲内に敎授するの可否何如と云ふ乎吾人は更に其論の明々白々なるとを悟るもの也

●論説

○東京婦人矯風會大會演説第三席筆記

田村直臣君演説(婦人矯風會員の責任)筆記(一)

或る人の言葉に「こゝに一つの破れ家がある時其れをこはして新たくするがむづかしいか又は其のまゝにをいて直すがむつかしいかと申された所が其の答の言葉に破れ家を壞して新らしい家を造るはさまでむつかしいことは無いがあちらをぬきこちらをぬきして新らしい家に代るは困難中の困難でありますと申したといふことですが今日婦人矯風會といふものが出來まして社會の風俗を改良するに當つては餘程困難あることがござりませう。其れは一つの家がある所で其れをたゞきつぶさずして改良するものであるから。此の時に當つて婦

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人婦風會員のお方の難事たることを述べてお勸めを致したいと思ひます。

第一に私の申さうとする所は婦人の風俗を改良するとは餘程難事で有また改むるに餘程の責任があるといふとでござります。今まで行はれて居とをば打破つて變やうといふには餘程の力が無ればありません。今日まで男子も女子も同く同等の地位を占て居もので無く女子も男子も其説を持て居るよりして其結果は明に知れて居ます。私は昔からのむつかしい歴史を引て言ふので無く只今今日の有樣を見て知とが出來ます。たとへば「あなた御夫婦でお遊びにれ出なさい」とか「御膳を喰にれ出なさい」とか言て夫婦を呼んだとき夫ヒトリしか來らず。妻はドウしたかと聞と妻は一里か二里後れて居ますといふ樣な譯で(笑)其で妻が行た所が家の隅に居ッきり頭を下て何にも言ない(笑)。斯の如き有樣は女は下い者と思ッて居からでござります(喝采)。また銀座通を歩けば夫はフトコロデか何かで歩き妻は重たい赤ン坊をおよッてウンウンと歩いて居(大笑)まだ其計りで無く、家へ歸ても少しも夫の仕事に口を出とは出來ない。日本の母に育てられた人は知て居ますがイタヅラ子供は、私どもも隨分イタヅラ子供でありましたがイタヅラをするとバケモノに食せると言ひバケモノで聞ないと今度はオトッサンに言付ると言ふ。まるでバケモノとオトッサンと一所の位に置てあります(大笑)。斯の如く子供を教育をするに男子の方に力を付ます。また人に紹介するに「これは私の愚妻で御坐る」と言ふ(笑)ソンナ愚な妻なら持んがいゝぢやアござりませんか(大笑)。また演説を聽にゆくと此議論は六ヶ敷から更に女子の爲に説明しませうと言ふ(笑)。是は辨士が女子を輕蔑するのでござります 喝采)。又甚しいのにあると男のグヅなのを見と「あれは女の樣なヤッだ」と言ひ(笑)尚甚しいのになると「女の腐た樣なヤッだ」と言ふ。(大笑)斯の如くして日本の社會に在て女の有樣を見と男子といふものは女子を輕蔑する風が有ます斯の如き際に當て此弊をたゝきつぶすのは婦風會員の任でござります。(喝采)(未完)

○ノックス夫人演説(女子教育説)筆記　(四)

結搆な學校も追〻に殖へ學科も增〻進歩してをります、ソーシアなたがたは一般の進歩に後れずついていらつしやるてだてが備はつてをりますから其利益をお受なさる多少は其機會に乘ずるとソーブないのと修學の勤惰に依るで御座りましよう。

敎育ある基督敎主義の婦人は日本にも亞米利加にも何處の國にも他の勢力ある者に比らべて尤も働きの出來るものでございます、婦人が一家族の男子に勢力を及ぼして一國の男子を定めました事は歷史上其ためしが數多ございます。されば皆さんも御勵みなさつて高尙な目的を目がけて御進みなさい、ソーシア此れに達するのにはたゞ日々の學業上に心を盡すより外はありません。

手出しする位の者には手拔けあるなとは亞米利加にて申ます名言で御座いますが矢張り日本にも當て用ひて差支へはありますまい。

例へば五里の道のりを行かふとするには先づ一足さきへ踏み出し亦ふみ出して長い道程を一歩一歩の運びて遂に行く先き迄達するのでございます途中で倦み躊躇する時は行く先きへ着く事は出來ません其とふり結構全備の敎育も一日一日の課をふんで參らねばなりません此處に枝折し彼處に求つて調べ修る處は等閑なく練習してしつかりと記臆に止めねばなりません。

私は貴孃方のかく心を盡して學業を御修めなさる內にも亦一層の勵みになる事を何か御すゝめ申したふございます國へかへりましてからもあなたがたの進步の喜ばしき音信を伺ひ度思ひますソーシア亦日本一般婦人に眞正なる基督敎主義の敎育の進步を聞て喜ぶものが數多ございます　（大尾）

○男女相擇の說　（七）

西村茂樹

以上ハ從來の選擇法に就きて其利害得失を論じたる者なり偖今日以後の少年男女の爲めに夫婦選擇の眞法如何と考ふるに今日以後ハ女子の敎育も其步を進むべし女子の交際も亦益開くるなるべし父子同居の風も亦漸々に改まるべし然るときハ選擇の法も亦隨て變ずべきハ自然の勢なり然れども本邦社會の狀態に依りて考ふるに全く男女自擇ぶのみにして父母の選擇を廢するハ甚だ不可なるを知るなり蓋し本邦女子の敎育交際開けたりと雖ども遠く西洋に及ばず社會の事物亦未だ十分に男女自擇ぶの風に適せず又本邦の男女自擇ぶ者ハ多くハ己の情欲に動かされて自ら制すること能ハざる者にして今の少年輩ハ未だ全く其習氣を脫すること能ハざる者多し少年の男女自擇ふときハ其擇ふ所目前の小善に在りて後來の大善を見ること能ハず目今の人情にて專ら男女の自擇に任かするときハ男女私通の途を開きて風俗を害するの恐あり殊に男子の如きハ之を口實として妓女等の如き不正の婦女を娶ることあり右等の弊害を防ぎ又舊法中の時勢に適せざる者を除き去らんとするにハ左の八條の如きを以て最も宜しとすべきに似たり

第一　夫婦の選擇ハ父母之を擇ぶも男女自ら之を擇ぶも時宜次第にて何れも之を許すべし

第二　父母之を擇ぶときハ其子女の意を問ひ同意を得たる上にて之を決すべし

第三　男女自ら擇ぶときハ其父母後見人の意見を問ひ同意を得たる上にて之を決すべし

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

第四　父母の擇びたる者にても其子女己が意に協はざるときハ明らかに己が意を述ぶべし其言若し理あらバ父母ハ之を聽かざるべからず

第五　男子の擇びたる者にても或ハ妓女其他不正の業を爲せる婦を娶らんとせバ父母後見人ハ之を禁止することを得べし

第六　女子の擇びたる者にても其男子の性質不良又ハ品行不正なることを知るときハ父母後見人ハ之を禁止することを得べし

第七　父母なき者ハ男女自擇ぶハ勿論のことなれども他の尊屬親又ハ朋友の意見を問ひ同意を得たる上にて之を決すべし

第八　男女自擇ぶの場合に於て其親族朋友若し其選擇を不可なりと思ふときハ必ず本人に之を忠告すべし

右ハ余が今日以後の少年男女の爲めに謀る所にして自ら其言の大に謬らざるを信ずるなり若し當今の開化者流の說を信じて輕卒に自ら相擇ぶときハ(殊に女子に於てハ)恐くハ臍を噬むとも及ぶべからざるの悔あらん婚姻ハ人生の大事にして其人の德不德幸不幸是に由りて分るゝこと多し宜しく深思熟慮すべき所なり幼年にして許嫁するの弊ハ余も亦論者の言に同意するを以て別に擧論せず此事ハ世人の必ず行ふことなからんを願ふなり

群書類從は叢書中の大著なれども塙撿校盲にして能く之を編む。曲亭馬琴の八犬傳は日本小說中の巨擘なり然も其後部は盲目となれりし後に成る。ミルトンの失樂得樂兩園の詩は英詩中の淸聖なるものなり然も共に其盲目となりし後に成る。ホーマーのイリアッド、ヲデッセーの兩詩は史詩中の金玉なり然も共に其盲目となれりし後に成る。十六世紀の頃著名なりし西班牙の樂人フランセスサリナスは天眞の盲人なり。ジョンスタンレーは英國の樂聖なり然れども二才にして目を失ひたるものなり。

●叢話

○束髮の事

左は渡邊鼎君の著束髮案內(近刻)の末へ編者が跋として書添へたるものなり

美術の進歩は大要繁より簡に入り濃より單に移り一見燃立つが如き赤紫の色を去つて先づ桃色となり空色となりて終に純白の色に入る也是故に骨董品を愛する者にして其紫檀の机鏡の如く金色の茶具錦の如くんバ余其未だ上乘の物好にあらざるを知る造作の結構を好む者にして其床の間の模樣機關の如く間の物の樣子劇場の觀あるに至てハ余亦未だ其の疑らざるを知る也眞目の杉の戶は昔を橿原の宮に慕ハせ素木の松柱轉た堯舜の當時を懷ハせて而て泥色の器具ハ太閤時代の流行品に似煤の色したる机は恰も辨慶書寫山の遺物に彷彿たるものあらん敷而も其間に於て古色掬すべく布置法を得るに至て初て之を美術の味を得たるものとなすべき也故に古來粧飾の跡を考ふるに亦之に均しきものあり婦人の粧裝に就て之を見るに特に其甚しきを覺ゆ故に今ま鬢髮板の如く飾具雛人形に均しき結髮の風を改めて之を淡泊淸粧の束髮とするハ眞に美術界上一進歩を了し得たるものなり彼のフヒヂー島の女ハ周圍

五英尺に過る髮具を頂き亞弗利加の婦人は旅客をして喫驚せしむるが如き複雜の頭飾を着け稍や開化したるゼンチー人の女人も其頭毛の裝は猶ほ軍兵の兜に似たりと云へり如此ものは皆な未開半開人の好む所にして文明國の淑女が尤も快とせざる所なるべし頭髮油氣を存せずして自ら整ひ浮動軟々として時に額前に躍り一枝の細櫻花僅かに頂の右の手に咲ふが如きハ眞に簡に美を盡し單に麗を粧ふものと云ふべし之を頭上に蜘蛛を舞はせ後頭に天の橋立を架するものに比して幾千の差ぞや苟くも文明の美術を知て文明の女粧を喜ぶ者は先づ頭内の腦を一新して同時に頭上の髮毛を一洗すべし玆に至て束髮の風に改めざらんと欲するも得ざる也

明治二十年四月　　束髮會幹事　巖本善治

○西洋女禮の心得

此頃發兌したる通信女學第一卷の中に西洋女禮と云へる者の講義あり今其中の一章を抜きて左に掲げ未だ見玉はぬ人々の覽に供ふ

古語に禮は和を以て尊しとすとあり世に禮儀と云へる片苦し氣なる者を用ふるは何の爲ぞと申すに必竟人々が末永く親しく相和して交り得んが爲めなり凡そ人の交際は餘りに親し過るよりして知らず識らず不遠慮の取扱も出で來思はざる不愉快を感じ合ひて睦じさの破ぶるゝともあるものなり故に親しき間からにも平生此の禮儀と云へるものを用ひて互ひの氣儘を制しただし相樂しみ和するのみにて厭なる思の起らざるやうにするとなり

然るに禮儀の主旨は固と右にも述ぶる如く和を尊しとして要する所ろ相親しむとの厚く且つ永からんとを祈るの外あらざれば禮儀を餘りに片苦しくして之が爲に反つて雙方の睦じさを失ひては成らず其邊の心得甚だ大切の所にて禮儀の世の中に効能あると否とハ實に此一事にて相分るゝ者なり然るに支那の禮記に傚へ我國の小笠原流に定るやうなる禮儀ハ當今の時世に對してハ少と窮屈すぐるやの趣あり追てハ必らず之を改良して西洋風の禮儀を之に折衷するの日あらんと甚だ明らかなり

特に外國人との交際日に日に隆んとなれば假令ひ自らハ禮記の教を固守し又は小笠原流の定を奉ずるにもせよ西洋人と交るとき若くは西洋風の宴會などに參りたる時は是非とも曲げて西洋の禮儀を取らでハ適はず故に今の時に於て西洋の禮式を學ぶとは甚だ大切なるが中にも取わけ此樣の事を重しとす

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

る女流社會は殊に之を心得置かざるべからず
故に此より下に其大略を講述すれども西洋の禮式は固と男女に依りて甚しき相違あることあらず大抵は皆な男女の雙方に通じて彼是に格段の區別あらざるものあれバ左に述る所も亦た女禮として見るべき者のみには限らざるべし然れど成べくは女流に關はるものを先にして説明し男女の雙方に通じて一汎の禮儀とあれる者の如きは往々之を略することあるべし

第一章　婦人紹介の事

未だ知らざる人々を紹介し合はさんとするには常に二箇條の心得を要す一に云く雙方の人々は其知交となるを好むや否や二に云く此の二人は互ひに相ひ親睦し得べきものなりや否や

婦人へ男子を紹介するは宜しく決して婦人を引て之を男子に紹介すべからず

婦人を婦人へ紹介し又は男子を男子に紹介するときは常に年少かき人を年老ひたる人へ引合はすべし

婦人へ男子を紹介せんとする時は必ず先づ其婦人の好むや否やを聞くを要す

婦人男子へ紹介されたるときは握手の禮を行はざるを法とし只だ少しく腰を屈むるのみにて止むべし特に歐羅巴の大陸地方にては婦人が男子と握手するハ餘程に親密したる人に限ることとするあり

朝の來客中偶と未だ知らざる兩人落合はゞ兼て此兩人の望みあかりし以上は主婦人たるもの決して之を此時に紹介すべからず但し右兩人の客は一方の未だ知らざる人を主婦人の知り人たるとによりて信じ極めて心安く談話すべし此際徒らに無言にて嚴粛にあるは宜しからぬものあり

友人の家に落合ひ數多の客の中に見留めたる人ありて後日他所にて之れに面會するも腰を屈むるの禮を爲すべからず凡そ腰を屈むるは即ち既に知り合ひたる上にて爲すべき禮儀なるに未だ紹介を經て交はらず只だ顔を認め合ひたる如きは尚ほ之を知り人とあすべからざれば也

兩人共に逍遥するとき一人の知り人來り會はせて之に伴ひ同行すとも之を一方の友人へ紹介すべからず其禮は恰かも彼の朝の來客を待すると同様あるべし

夜會舞踏會の節は主婦人たるもの雙方の承知を經ずして直ちに兩人の未だ知らざるものを紹介し合はするを得べし尤も貴女に紳士を紹介して之に相ひ蹈舞せしめんとするには先

ヿ貴女の好み如何を聞きたる上にて引合はするを宜しとす

婦人が其兄弟を毋が其子を人に紹介せんとするには一方の人の身分自分よりも遥かに立優りたる者にあらざる以上は預め其人の心を聞かず直ちに之を紹介するを得べし

友人の家に會合したる人々が其友人を一方の友人へ紹介するは妨なしと雖も成べくは主婦人の手に之が紹介を托するを宜しとす

舞踏會に於て只だ共に踏舞する爲に紹介されたる兩人の男女は固と一時の知己に過ぎす故に後日其男子が彼の女子に對して腰を屈むるの禮を爲すべき權なし故に若し男子が斯る禮を行ふとも女子は之に禮を反へさゝるも不可なし

紹介する主婦人は大抵 "Allow me to introduce Mr Iwamoto -Miss Inouye, Mr. Iwamoto." 等の語を用ゆるを例とす

〇以上は即ち婦人が面り紹介し若くは紹介さるゝ時の禮あり其外書狀に依りて紹介さるゝの禮あり之を後に述ぶべし

〇白身先生の僮兒

僮兒先生を呼んで曰く先生思ひ甚だ高うして反つて異途に入る野子不肖敢て先生の敎を非むにあらずと雖も然も平常先生の敎を辱ふして幸に得たる所のもの敢て今ま之を陳して疑を質さゞるを得ず嘗て聽くブライニーの妻は全心を盡して其夫を愛す夫が朝廷に於ての首尾何如あらんと心遣りては一刻も安んずる能はず夫若し公衆の前に演說せば身獨り家に留る能はず密かに聽衆の片隅に混じて樣子何如あらんと掛念す夫若し打案じて句を得る時は自ら笛を弄して之を吟じ夫若し文を草すれば則ち喜んで之を味ひ心奥に納むと如此き佳人何んぞ只だ理想界にのみ存せんやアブラダタスの妻パンテアは恰も是れ良人の半身なり出軍の用意備りぬ自ら仕立たる袍具を良人の鎧に着けて「吾夫世上に若し其生命よりも尚其夫の生命を重んずるの婦人ありと云はゝ之れ即ち妾なりと知れ」と言未だ了らず更に云く妾は自ら憂ふるよりも更に强く君の生命を重んず然れども君は不名譽を以て生んよりも寧ろ勇者として死せんとを好み玉ふか故に妾はもし得べくんば君と共に地下に入らんとを望むとアブラダタス車に登て戸正に閉づ吻を車座に接して密に其跡を躡ぐと如此き佳人豈たゞ理想界にのみ存せんや先生常に佳傳を草して幾多の良妻を示す此等のもの皆な古今の世上に現はれ來りたるものにあらずや何んぞ獨り先生の身に就て之れなしと云はん先生詩を誦して初て美人を得小說を讀みて漸く賢女に會すると云ふかそも〳〵此等理想

の佳人は皆その躰を實際の人物に取りて漸く寫し得たるものにあらざるハなし先生何んぞ特だ之を無味淡泊の紙上に樂んで之を實在の活世界に求めざると言辭風を生じて口邊うたゝ波を起す時に月光樹枝中の空隙を洩れて室内殆んど晝の如し先生の面轉た白く莞爾として微笑するを見たり

●佳傳

○ルシー、ハッチンソン夫人　（接子第五十七號）

斯てハッチンソン夫人は其夫を助けんとて樣々に力を盡したれど其効なきのみか牢内の空氣不潔なる爲め夫は其身を傷めて病いよ〳〵重れりと云へり左れバ夫人は尙更に憂ひ悲しみて日々に通ひ見舞ひたるが病症急にはげしうありて今は望なしと見えたる時不幸にして夫人は在らざりけりハッチンソン氏は傍に居合せたる人に告げて遺言すらく

君願くは吾が妻に語り玉へ彼れ既に尋常の婦人の上にあればこの際また一と通りの心にてハ相成まじ只だ善良なる基督信徒として身を守り玉ふべし」と

夫人は善く此遺言を守りて徒らに愁傷せず之よりしては今ハ夫の遺念となれる幼子等を教育してつねに〳〵亡き夫の如くなれかしとは語りきかせぬ然れバ後に至りて寡婦著大佐ハッチンソン氏の傳と云へるを作りて子供等に示し又稚子等に告ぐると題したる一篇の文章を與へたる中に云く

妾は尋常の寡婦の如く悲歎すべからずとの遺命を受けて日々心中の歎きを和らめんとを勉め且つ成べくハ吾が愛情をも增さんとを勉るに當りては稚子等の父たる妾が夫の事を思ひ起すより宜しきハなく亦斯するより外に自ら慰るの方はあらざるなり此事に關してハ彼の雇ハれたる說教者が善きにも惡きにも均しく追從の言葉申すが如きにあらず吾眞心よりして之を言ふとなり稚子等の父の御事を申すには只だ飾らざる有の儘を語らんにも尙ほ古來第一の文人が最良の人の德を賞めたゝへたるにも優る所あらん蓋し此方の一生ハ只だ一の德よりして次の德に移り行きたる進路に均しかれバ此等の諸德を算へなバ則ち父の傳記となるべし稚子等若し其御行に倣ハゞ諸〳〵の道德家が定めたる種々の規則を學ぶにも越なん父は神の御心に隨ひて己が精神を盡し以て德行を實際に行ひ玉へる人なり

又稚子等の父が此母を愛し玉へるの深きは筆にも盡しがたし若妻を遇らふべき親切、優待、心得、なんどの規則何如んと

問ふものあらバ父の御行を其儘に倣ふぞ尤も宜しからん蓋し男子にして女子に對する愛情及び尊敬を盡したると如此く深きハ他にあらざりしならん然れど之れ決して己が妻に甘しと云ふにハあらず女子の從ふべき道に對してハ妾をして最も嚴しく從ハせ玉へり其中にも尤も用心して妾を支配し玉へバ斯る取扱を受けて若し不滿足など申さんものハ全く靈魂なきものならんと思ハれたるほどなり又父が妾に勸め玉ふヿは悉く皆な妾に利益あるヿにて利益なきハ夢にだも勸め玉ハず父は妾の容貌よりも妾の心を愛し……妾が年長けて既に紅顏衰ふるとき彌よ妾を親切に報ひ玉へり父が妾を愛し玉ふヿ此の如く中々に言ひ盡すべきにあらざりしが然ればとて妾を以て其の樂しみ物と爲さるゝにはあらず實に妾を以て同胞の人類とし扱ハれたるなり……

ハッチンソン氏夫婦の愛如此く清潔にして且つ深き所以何の故に因るやと云ハゞ則ち初に於て其擇ぶ所の肉にあらずして靈にありしが故なるを知るべし

In peace, love tunes the shepherd's reed;
In war, he Mounts the Warrior's Steed;
In halls, in gay attire is seen;
In hamlets, dances on the green,
Love rules the Camp, the Court, the Grove,
And me below, and Saints above;
For love is heaven, and heaven is love.

Scott.

○ブライト夫人の肖像

左に掲ぐるは万國婦人禁酒會の會頭マルガレット、ブライト、ルーカス夫人の肖像なり夫人は英國に有名の政事家ジョンブライト氏の妹にしてクエーカルと云へる嚴肅なる耶穌新敎の信徒なれば夙に酒煙草等を嚴しく禁ずるは勿論世に戰爭など

云へるものをも全く無からするに至らせんとて兄を助けて多年盡力あり又英國に設けたる婦人禁酒會の會頭となり早くより其事業に力を盡されたるが曩にレビット夫人世界に遊說し

て茲に初めて万國婦人禁酒會なるものを組立てたる時に當り夫人に請ふて右會頭の任を托されたれば今ハ即ち万國ニ在る數十万の會員の頭となりて此の名譽ある仁慈の事業をば案內さるゝことゝなれり

○忠貞不二秘錄

左は信州飯田の領主堀大和守の奥殿に仕はれたる不二女が事を記したるものにて上林敬二郎君が祖父なる人の當時密かに物し置かれたる傳記ありと聞く今ま同君より其寫しを寄せられたるを見るに彼の山陽が記したるとは多少の異る所あれども其頃藩々の虛榮を求ると切なるに當り斯る勇女の功は反て藩主の恥辱を來す所ありとて嚴に之を世に秘くしたりと思はれ此を錄したる人もやう〳〵に大刀とりたる男より聞得て認め乍ら之に秘錄と題したるなど思ひ合れすれば山陽が耳に入りたる風聞も固より確實ありとは考ふべからず寧ろ此秘錄に記したるが出處も確にして據り所ありと思はるれバ其儘に左に揭げぬ要するにふじ女が誠を以てよく忠を盡し勇壯偉丈夫をして恥ぢ死せしむるの間に倘ほ優雅たる女德を存したるの趣を味ハゝ可あり　編者白

是に信州某侯の御藩中に山口圓治と云ふ者あり生國は信濃なるかは知らねども久舖江都に住居して當時の奥付を勤むるとぞ爲人質直にして學を好めり其妻の名は忘れぬれど是れも溫順なる者にて男女の兒輩三人あり長女は不二と稱せり父母に仕へて孝心厚く弟に對して友愛深く且つ容姿の美麗近世較ふる者もなく甚とめづらしき處女なりけり圓治夫婦かたらいけるよう彼も追々成長したればいづれ一度は他へ嫁るものなれば若年の內奥方樣へ給事しすこしありとも奥向きの事を見覺へさせなばわれ〳〵の膝下に置かんには遙かに優るべければ不二にも此旨申聞に不二は暫時も父母に別るゝは悲しく思えども又父母の我が爲めに厚き心を喜びて速に承諾をせしなるべし軈て此旨願ひの通り其の侯聞召奥方へ御目見へしけるに仕度取急との仰にて早速召抱られたるは既に數年の昔しとぞ不二は出仕の其日より諸事に念入れ誠實に父母に盡せる孝心は君にも忠と諺に云ふに違はぬ赤心を奥方深く感じられ不憫を加わへ朝さ夕に側を放たず召仕はる天性發明器用にて女の手業は本より也文讀む事も疎とからず手跡は殊に見事にて奥方の代筆は多分は不二にぞ命ぜらる其外絲竹の事迄も敎らるゝに甚ださとし花の晨や月の夕は筑紫琴など搔鳴らさせ數興を催さる如此何事も衆人に勝れしのみか殊更父母に孝心厚き

よし兼て聞及ばれければ度々宿へ下げられて父母の機嫌を伺ふと一日の暇を玉はる事格外なれど奥方の心得也と聞たり不二は何より難有かゝる高恩を何の日か報ひ參らせ奉んと彌〻精勤せしなる可し抑も此の奥方と申せしは阿波の太守某侯の御娘賢德まします方とかや此君にして此臣ありいとも目出度事なるに盈れば虧る世の習ひ花には嵐月に雲此に側室豊浦と云ふ者飽くまで心姦邪なれど容貌いと艶麗なれば侯の寵愛甚だ深し三度の食も彼が手に成らねば甘しとし玉はず奥向きの事なにくれとなく彼が心に任されければ老女中老其外の者はあれどもなきが如く萬づ我意に執り行ひ能を猜み賢を忌み奥方によく使る女中にはつらく當て追ひ退け威勢日々に增長し遂に奥向のみならず家中上下の有司迄少く彼が意に叶はゞ功無に祿を蒙し聊か是に逆ゑば過なきに罪せらる姦佞の舌頭人を破る劔の如く邪智の胸中は君に毒する砒霜に似れど面は甚も信〻しく色もて侯を惑し奥方を惡樣に讒しけん遂に夫婦の御間に垣を隔る如くにて夜の枕席は云も更なり席をも共にし賜ず其外後宮幾人の粉黛色無まで獨り君寵を專らにしたり鳧

When maidens sue,
Men give like Gods; but, when they weep and kneel,
All their petitions are as freely theirs,
As they themselves would owe them.
Shakespeare.

○ジャン、グレー姫の傳

英國王統の歷史を通覽するに悲哀慷慨の談には乏しからずと雖もジャン、グレー姫の談話の如く痛歎悲極の事實は多く見ざる所なり史家は史を飾り論者は辨を大にし始めて讀者に快を與ふると是れ世の尋常の談話の通弊なるが此の事實の如きに至りては記者が華美なる筆もてジューク及び其夫の父にて御在す方の無謀の業を企て果敢なき御最後を遂げ賜ひしを正理に心を委ぬ異の宗敎のために身を捧げたりなど事々しく大書したるがため淋漓の情悲哀の思を深ふしたるにはあらで其事實其事件のよく吾人を感動せしむるに足るなりけり

ジャンクレー姫は素と佛蘭西の皇后なりけるメレーの孫女なり此のメレーと申す御方は英吉利の國王ヘンリー八世には妹君にてあり妙へに勝れたる容姿なりければ漸く二八の春を迎へたる時其頃歐羅巴に威權を揮れたる兄君の政略にて我身より三倍も年長け殊に放蕩の聞へ高き佛蘭西の王ルイ十二世に御結婚遊ばさるゝ事に至りぬ渺望たる萬里の波濤を超へて住なれしロンドンの帝都をあとに旅路に赴かるゝ事如何に物うき事なるらん昭君が夷の旅も身にひきくらべていと悲しうこそあれ其上强仕の齡を重ねたる夫には婚姻の後ち三月も立た

ず鴛鴦のふすまの未だ暖まらざるに早や黄泉の人となりけるハ如何に御なげきの程もと思ひしにさハあらで皇后の宮にハ御身自由にありたれバ以前英吉利斯にて深くも契りて末ハ夫婿とまで戀ひこがれたるチャレスブランドンを招き何に憚かりもなく思召通ハしけれバ唯是れ死後三日の寡婦とも申すべき歟うたてき次第なり其後兄君ヘンリー八世王ハ皇后ヘ使者を送られ侯と婚姻を結バせ賜ふにも將た結バせられざるにもせよ兎も角も一旦ハ英吉利斯に御歸らせ賜ハるべしとありけれども其の意に從ハずして巴里に止まりけりされど如何なる故にやサッフォークの侯にハざんじ此の婚姻を遷延せし後巴里に於て私かに皇后の宮と契りを結バれ幾程もなくフランシスブランドンと呼びなせる姫君を生み賜へり此の姫君にハダットセット男爵なるヘンリグレー氏に婚しサッフォーク公家を立てられ三人の女兒を生み賜へり此の姫君達にはトラムハウスてう瑤臺の上に於て末の妹ジャンの君ハノーザンバランド侯の第四子に渡せられ賜ふロートギルフアードに姉君カザリンの君にハブロンホーク侯の御相續人ヘンリーに次女メレーの君にハ左程美しからぬと云ふ際にハあらねど姉君達に比する時ハ劣りたる故にやエドワード六世の護衛長なりしマーチンケースと申す人に嫁せられたり末の妹ジャンの君にハ一千五百三十七年の御出生にてありければ此の時御齢僅かに十六歳にてありけるとかや實に此の三人の姫君達には同じ日同じ處に於て今日を千年の始めと目出度結婚を取り行ハれたるはためし稀れなる事共なり

されども情ある者は衰へ色ある者は變ずる人世の習ひ未だ咲きやらず春待遠の御年なるジャンメ姫の君にハ婚姻後また間もあらざるに僑傲なる父母の爲めに虐待せられ其器械となさるヽのみか折節ハ人にハ爲されまじき禽獸に比しき擧動を爲されれ爲めに法官の手を煩ハして其說諭さへ仰ぎたる事ありと是等事實のたしかなるとハあながちジャン姫の自から語られたる者にのみ據にあらず此の頃ラテン書記官兼エリサベッ女王の教師を勉められたるローガーアスカム氏の物語に徵するも至りて明かなる事にこそ

今やアスカム氏の著せられたるスクールマスターとなん呼バれたる書中を見るに曰く

愛情恐怖の二念ハ共に少年子弟の學問及び美德を養生するに於て勢力を有する者なるは識者の是認する所なり然れどもも二者何れが勢力を及ぼすものなるやを問ふ人もあらバ予

輩ハ喜び個々人々ハ愉快なるに聽き利益あるに從ふ者あるを答へんのみ

先きつ頃予輩ハ歐羅巴の北部ある日耳曼の國へ旅行せんと志しけれバ先づ予輩を杖とも柱とも頼みつるジャンの姫君に別を告げばやとラインスターシャーのブロートゲートに至り見るに折節姫の主君なる公及び公の夫人にハ一家の貴婦人紳士共數多召し連られ花園を彼處此處と逍遥して日脚の長き春の日を短きまでに樂まれける其が内にジャンの姫君にハ見へざりければ西の臺なる臥戸を訊ふに姫君ハ見る人ありとも知らざる躰にて希臘のプラトーニックとなん呼けられたる書物を取り出たして餘念なげに見入らせられける其様如何にも昔或るあて人がスコック婦儀の談と云へる者を讀んで樂まれたりと云へる愉快にも優ぬらんと見へたりける口誦雜談も果てにければ予は折を見て姫君には如何なれバ花園月園の樂をバなさで斯かる臥戸に伏し沈ませ賜ふやらん解し難き事にこそと申しけるに月の園や花の園にて彼の荒々しきむくつけ氣なる人々と樂みたればとて妾がプラトウの書中にて見出だす快樂に比すれバ是れ將た何の樂しきとかある心ソコにあれバ虎穴龍譚にありと雖も愉伽上乘の樂あるにましてや眞理を共にし古の賢人たちの說に接する事を得るに於てをやと申され稍々ありて歎息の語して嘻々國人よ國人には未だ眞理てう愉快の如何なるものなるやを感ぜざるにやと予は重ねて姫君よ御身にハ斯の如き快樂の善智識を何處よりか得給ひしぞそも御身の樂みとせらるゝ所のものハ是れ將た婦人の樂みなるのみか男兒にも稀れなる可き樂みなるを如何なれバ御身かくまで悟り給ひしやと問ひけるに姫君にハ再たび語を繼がせられ御身に妾か此の境理に入りし次第を物語らんハ事甚だ長ければ今其あらましを語り申さんに妾に情けなく殘忍なる父君と文雅なるが上に温良なる師ありしハ是れ上帝が特に妾を惠み給ひたるにやわらん其理由を申さバ妾が父上母君に面會する折ハ語るも言ふも云ハざるも坐るも立つも亦行くも食ふも飲むも飲まざるも歌ふも舞も愚なり如何なる事を爲せばとて上帝か此の世を創造し賜ひし如くに缺點なき模範あらぬ妾に其度其術さへ計らせて神の如くに爲さゞれハ父母の意中に合わず左ればバ妾は誹謗讒訴殘忍苛虐の脅迫をなさるゝのみにハあらで折につれてハ捻り切られ又打ち擲ちやくまでをも爲されたる事少なからねバ妾ハ文讀む法を篤實に敎へ給ひ學の海の荒磯を渡る揖さへ授け給ぬるフレーメル君の宅に至るまでは恰も飯

の山に身を浮べ冥路の川に心を沈むるの思あり夫れ讀書の外は喜びとてハ更らになく悲哀苦難と恐怖のみ交々襲ひ來る事あれバ日毎夜毎に晴やらぬ深き歎きに伏し沈み朝な夕なにハ書を讀みて僅かに其悶を慰るのみされバこそ書物は日に樂みを妾に與へ他の快樂は妾に悲みを來たすに至れりと跡云ひさして默然たり人木石にあらざれバ思はず誰人も此の話を聞て嘆息せざる者のあるべき予は喜て此の談話を記臆すべし此の談話たる實に記臆に存するに足るのみならず亦斯の如き悲哀ある話は絶後の悲哀とハなされざるも空前の悲哀と稱すべし斯の如き悲哀の姫君を見るも予は最後の時と信ずればなり」と（未完）

●寄書

山家の鶯（武田松涛評）　　鳥居忱稿

深山邊や、柴の庵はあく鶯の、待たれつゝ、朝あく〳〵、あさいせられず、雪ふかき谷蔭の、古巣を出でゝ、窓近き呉竹の、しげみがおくに、今朝、今朝、今朝、今朝（疊句創妙）今朝よりおきぬ、鶯のこゑ、

返歌

山の庵は待つかひありてうれしくも今朝鶯の初音きゝけり

○高崎女子の友の發會を祝ひて

開け行くことくに〳〵の花を見てあほれくれしと咲匂ふなり

○前橋高崎連合婦人會の祝歌（上）　　蘆澤鳴尾

賢き御世のみめぐみの數にハ辱じけなさといふもなか〳〵になむ此前橋の邊にし無月より一早ふうち寄りしたしみ給ふことを春の霞のおほろけならずうつしとて給ひて高崎の里にて同じこゝろにひらかせ給らんとてさま〳〵にみこゝろを盡し給ふまゝ二葉の松の一葉引わかれしてゝちして萬つ代もかたみにしたしうむつみ奉らんとおもい給ふるにこたひ卯月のはじめその儀式をれこあはせ給ふとてそのやくにつらなりし人〻その外あまた立出給ふまゝわれらも同しむしろにもろともにとてとり〳〵しひてそゝのかし給ひて老たる身の萬づたぼつかなきまゝことはりたてまつるぐらゐのつみゆるし給へねあめしなからみじかき筆にてけふのことほきのみをたてまつる

姫松の操もいとゝおりを得てみうへは三代のひかり成るらん　　佐藤知事北堂

あなたこなた婦人會といふことをさせ給ひてれみあの道みかき給ふに高崎の里にてもとり〳〵うち寄給ふにわれらも同じむしろにまとゐしてかたじけなさのあまりに奉る

ひらけ行道明らけき大御代はやみの夜頃もふみ迷ふべき　　千谷こう女

同

をりあへて開き初めたる櫻花かくれしき名は世にかほるらん　　渡邊はま子

同

青柳のいとくりかへし玉くしげ二たびけふのまとゐ嬉しな

●新報

○婦人に位階を與ふるの可否　一昨年中某貴顯より婦人に位階を授るハ我國の古例にもあり且今や婦人の智識を增進し氣格をして益々高尚にせしむるの時なれば此制ありて然るべしよし叙位の婦人ハ上流の人僅々數人に止るも其影響ハ漸く下等社會に迄波及し自然大に氣格を高尚に導くの効あらんとの說を提出され一時其筋に於て種々の議論ありしやに聞きしが終に其議も立消となりたるに此頃海防費獻金の者へ相當の位階を授くべしとの議ありしより又々前論起り女戸主の華族其他よて位階を授るべき程の獻金をなす者あらバ均しく此特遇を蒙らしたし若茲に男女の區別をなし婦人に位階を授けざればバ男尊女卑の弊風ハ愈々結んで解る期無かるべしと論ぜらるヽ方もありしや抔噂するものあれど眞僞ハ如何にや

○養育院慈善會　東京府養育院ハ府下の窮民を救養する所なるに其資本不充分にして周く窮民を撫恤するを得ず故に其資本を增殖するため養育院慈善會なるものを起し毎年九月十三日より同十五日迄會員寄附の物品を販賣し其賣得金を資本に加ふるの方法を設け目下會員募集中なりしに今回宮內省女官中ゟ一時金百圓を寄贈せり（東京府報告）「右本年四月十五日官報」

○舞踏會　同會員ハ是迄勅奏任官華族幷ひに各國公使御雇外國人及び其夫人令孃等に限り入會を許せしが今度民間の者と雖も身元確實なる者及び其妻女にして同會員の紹介あれバ入會を許すことに定めたりと云ふ

○カートメル女敎師の歸國　同君は東洋英和女學校の敎師にして女子の敎育に熱心せられ所々の婦人會等にも力を盡されしが此度病氣の爲め歸國せらるヽよし同校の生徒は銅製の花瓶一對カートメル孃に贈ると鏤刻したる物を送られたりと同君の所有せられたる書籍は悉皆學校の書室に寄附せられ其他の器具等も貧人に頒てよとて一も自國に持かへられずとありまた同校より米國傳道會社へ君の工業を著はさんが爲めに贈られたる書簡を得たれば次號に掲載すべし

因に云ふ同校にてはカートメル女敎師の歸國に付き新たに米國よりカンニングハム外一人の女敎師を聘されしよし

○運動會　赤坂、麻布、兩區の各小學校生徒三千有餘名の運動會を山尾庸三氏の邸宅なる品川御殿山に於て催せり其中の十有餘名の女生徒は悉く束髮にて揃の花簪を用ひたるは一層美事なりき服裝は多く黃八丈服に紫の袴を着し居れり青山小學校の女生徒は筒袖を着したるは尤も輕便にして運動等に適せるの思ありき

○府下の雜件　東京小石川牛天神下の女子專門學校にては從前の日課へ今度更に裁縫編物を加へ專門學の外普通敎育をも敎授すると◎馬術師函館義三郎氏の門弟山島久光氏の設立せし小石川橋內の馬術練習所ハ最初より婦人の入所する者多かりしが今度華族會館より華族夫人方の傳習を囑托されたれバ一切男子の傳習を斷り女子のみを傳習する事となり目下五十餘名の婦人生ありと◎京橋區山下町の女工練習會ハ英人イムルコック及び蘭人ヘンリー、ヘウトの兩敎師が擔任にて英語裁縫、編物其他女子の手業を敎ふるより今ハ百五十名以上の生徒あるに至りしかは尙此上とも規則を改良し役員を撰定し一層取締を嚴重にするよし◎林甕臣、下田歌子其他の人々が

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本婦人文章の不完全を嘆き之を改良せんとの目的にて設置したる大日本婦人文章改良會ハ今度神田西小川町一丁目の舊神保園へ其事務所を移せしが此程同會より敎授式、五十音變化、小學作文法等の數書を出版せり◎本所の江東女學校にてハ英人デニング氏の令孃を敎師に聘して先頃より高等科生徒へ英語の敎授を始めしが尙生徒一同の服を洋裝にせんと昨今注文中なり其切地は二子唐棧揃にて一組の代價三圓程ありと云ふ

○日本音樂會　同會は曩に少しく紛議ありしが此程漸く鍋島式部長官の盡力にて和解せしに付き其祝ひ旁來る五月十四日虎の門内の工科大學中堂に於て其大會を催すよし

○大津公立女學校　兼て設立の計畫ありと前號に記載したる滋賀縣大津の公立女學校は愈〻同地船頭町の商業學校跡へ設立するととなり其生徒は大津學校の高等科生及び其他學力相當の者一百名を限り入學を許し西洋婦人を招聘して敎師に充て專ら西洋裁縫、禮式、料理法幷びに英語學等を敎授する目的なりと

○婦人共益會　同會は去る十六日午後一時より名古屋門前町性高院の本堂にて開かる會するもの無慮八百有餘名多くは束髮にて洋裝の者も三十餘名あり頗る盛會なりしよし

○大坂通信　此程設立したる婦人慈善會にては來月七八の兩日偕行社にて催さるゝ春季大競馬の優等者へ婦人の財囊を贈らんとの相談あれど未だ決定せず◎中の島高等女學校にては先日兼て校内にて音樂唱歌の傳習を受け居りし四區幼稚園保姆の卒業證書授與式を行ひしが受證者は凡て五十一名ありしと因に云ふ從來四區の幼稚園にて授け居りし唱歌は今少し不充分の處ありしにより斯く保姆をして同校に就て之をは習しむるに至りしなりと◎東區平野町一丁目の大坂婦人學習會にては先頃より入會を謝絶し居たるが不日總會を開きて分會を設くる筈なり云々

○京都通信　府立高等女學校長吉田秀穀氏は願ひにより本官を免ぜられ去る十一日更に府立書學校勤務を申付られ學務課屬原田千之助氏が右後任として高等女學校長を仰付らる◎京都養蠶場にてハ本年より大いに事業を擴張する由にて今度更に武州競進社より上等の敎員を招聘し且工女をも多く募集すると云ふ◎西陣にてハ和服川は益〻不捌に付婦人の洋服地(一反に付き廿二圓以上の品)數百反を東京へ賣捌の見込を以て仕入しに已に夏服需用の期に迫り捌け口宜しからねは當秋まで持越さてハあらずと大いに困り居る由云々

○各地彙報　愛知婦人共益會の第四回は去る十六日午後一時より同區門前町の性高院に於て開會せしが當日は熊谷幸之輔、内海共之、安川辰三郎諸氏の演說、唱歌、奏樂、幻燈、理化學の實驗等ありて會員及び會員の家族の外ハ一切男子の入場を禁したり◎宮城縣下登米郡登米驛にては田邊秋司、櫻井良治、鱗名喜平次等諸氏の發企にて女洋服地を盛んに製出して東京へ輸出せんとの計畫あり目下東京の諸商人へ引合中なり◎同縣下志田郡古川の松操學校支校にては去十五、六、七の三日を以て高等中等の兩科生卅名の卒業試驗を執行し仙臺の本校校長朴澤氏も臨席したりと◎和歌山女子高等小學校の敎師瀧本氏を始め其他の同僚諸子には過般來授業の餘暇に英語を學び

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

居る由なるが右ハ近々同校の教科ヘ英語の一科を加ふる爲なりと云ふ◎鹿兒島本願寺の役僧及び生徒ハ已に先頃より洋服を着けたるが今度又右僧の妻女にハ皆束髮に改め追てハ洋服を着けんとて相談中◎福岡縣下小倉の官吏及び紳商の妻孃等ハ今度豊津より遠山、望見の二氏を招聘し米町の東岸寺に於て小笠原流の女禮式を稽古中なり◎島根尋常師範學校教頭心得小田貴雄氏の夫人にハ此程同地殿町吉田洋服店へ洋服を注文せしが右ハ自ら率先して他の妻孃を洋服に改めしむる樣獎勵せんが爲めなりと聞けり◎紀州和歌山在留の米國人チャール女史を始め耶蘇教信者中の有志者ハ過日來同地九番町へ教會堂を新築中なるが本月下旬にハ竣工の見込なりと◎三重縣阿濃津の私立三重女學校を始め師範養正の兩學校へ招聘せられたる東京女子師範學校の卒業生吉田トミ子(三重縣人)大野ーク子(熊本縣人)の兩教師ハ此程來着せり◎遠州濱松にてハ同高等小學女教師國府子の來濱以來大いに束髮の風流行し同校女生徒ハ大概束髮にて靴を穿つ者多しと◎紀州和歌山區の婦女子ハ其社會の上下を問ず其境遇の如何を論せず我も〳〵と束髮の流行するハ先號にも記載せしが同區計りと思ひの外那賀郡岩出、野上、曲谷、名手市場、西牟婁郡田邊等にも非常の流行にて深窓の處女ハ勿論舞女より年増まで何れも束髮に改たむるとの事◎神戸に於て設立せし神戸園藝會ハ來る五月下旬か或ひハ六月上旬開會の筈にて此程役員を撰擧せしに名譽會頭ハ内海忠勝氏。委員はツルーブ夫人、ブロートヘント夫人、エベル夫人、ヘーヤー夫人、セルニガン夫人、ヒウユース夫人、エバルス夫人、ゼームスツルーブ、チャーレスプレース、ヒエフライト、牧野伸顯の諸氏。名譽書記兼出納役ビ、エフ、ライト氏なり◎福岡縣福岡尋常小學校にて去る九日雇入たる女教師ハ大島ホトリ、梶川ツテ、山田キサ、尾崎チカ、柴田ヨテ、大原ヒユニの六女子にて何れも月給四圓なりと◎去る十三日宮城縣柴田郡大河原に於て製糸工女技術檢定試驗を施行せしが同地ハ一昨年來非常の奮發にて製絲の改良をなし此度の受驗者ハ凡て五十八名の多きに至りしと云ふ

○前橋高崎連合婦人教育談話會　同會ハ去る十日群馬縣高崎驛宮本町私立發育女學校内にて發會式を執行せり今其景況を聞くに當日高崎の會員、同校女教師深井仁子、三宅天野兩判事、張軍醫、中島中尉其他官吏紳商舊藩士等の各夫人令孃、中島吉田木暮岡河村等の妻孃總て九十七名にハ午前十時來集し前橋婦人會員を停車場に迎ふ前橋婦人談話會よりハ佐藤知事北堂令孃、渡邊河野兩書記官、土屋學務課長、千谷裁判所長、山邊判事其他官吏紳商等の各夫人總て三十七名出席し午後二時より發會式を行ふ本會幹事總代深井仁子先づ起て會員より出したる祝辭及び歌等を朗讀し次に本會談助員總代磐井宗成氏發會の主意を演べ次に當日招請の辨士鎌倉親秀氏、小野島行薫氏、神尾中學校英學教師、瀧澤師範學校教頭、土屋學務課長等ハ皆婦人に關する演題にて婦德の要道を修め將來文明教育の母となるべき旨趣を述べ同四時式全く終り會員一同茶菓を喫し同五時散會せしが近來になき盛にてありしと磐井育美氏より報道

●陳言　本號は餘白少くして材料特に多きに付新報内の傍訓を除き。又女學雜誌第六卷の總目錄を添たり

●日本婦人授産策答文　（接手前號）

只に是れのみならす經濟上大なる損亡あり則ち漸く修め得たる職業も子供の守りや襁褓の洗濯に實施するの遑なく且未た父母を離れて獨立すへき財産もなきに早く一家を立てゝ一家内に二三夫婦も同居するを以て遂には苦情の問屋となり其内不時の疾病物入等の不幸に逢へは夫婦琴瑟の樂は何か金錢の工面と變し終身債鬼の責る所となりて終る者實に少しとせす是れ皆早婚より來るの弊にして未た獨立すへきの財産もなきに早く夫に見へ一家を立るの故なり故に女子の權力をして彼の如く價あらしめんとするには此等早婚の風俗を改良して各自財産を造りて後始めて夫に見ゆると西洋婦人の如き覺悟あらしむると結婚條例を設けて婚期を制限し成るへく遲く夫に見えしむる樣なす事婦人授産策中亦緊要なる風俗の改良と云はさる可らす前章三項は風俗の改良上より婦人に授産を計るを論するの要領にして今又父兄の注意と有志の盡力に依るの方法を説かんとす

（C）父兄及ひ有志の注意盡力を要するの件

(1)未婚の女子に相應の職業を敎ゆる事、我國に於て女子の職業と云ふは只に裁縫の外なき如きの思をなすもの甚た多し成る程女子は必す夫に見ゆへき者にして其夫の衣服は妻たるものゝ職なれは女子一般に心得へきは勿論の事なりと雖とも猶此外に女子の營むへき職業決して少からす而して此夥多なる中にも上流に適するもの中流に適するもの下流に適する者相混するを以て世の父兄たるものは其宜を撰ひて各自娘に相應の職業を敎へて後日の基礎を固むるの注意なくんはある可らす只是迄の如く女子の職業と云へは裁縫ならては洗濯か或は召し使はれの於三か稍上りては三味線花茶の師匠位のものと心得へ決句遊惰の風と淫逸の情を起して風儀を亂すの恐れなる者を習はしめんとする者動もすれは多からんとするは實に歎すへきの至りにして斯る實際に無益なる遊藝を習はせんよりは正當にして然も女子の擧とも成るへき職業を敎授して後日臍を噬むの悔なからんとを務むへし

(2)都鄙の女工場を盛大にする事、女工場の切要なるは殊更に喋々を要せさるとにして殊に其組織の如きも決して一定なるものにあらすと雖とも多くは裁縫機業等の事に止まるもの多きに居れり是等も漸次面目を改め可成土地の模樣に從て各種の女工場となすと肝要ならん當時の女工場なるものは主に中人以下の婦人に適するもの多くして上流なる婦人には適せさる者多し故に後來猶一層高尚の職業を授くる樣面目を一洗せんと是亦本論の旨趣に鏘々の位置を占むる者たるを以て之

(3)諸工業會社に分業法を實施する事、分業法なるものは經濟學上非常の勢力を有する者なり何となれは分業の益たる少からさる者にして今其一二を擧くれは第一工事の熟練を來し第二新奇の工夫を感し第三時間を減し第四器械の働を圓滑にし第五分業すれは其難き者は男子に讓り其易きものは婦女子と雖とも是を爲し得るか爲なり譬へは茲に針を造る鍛冶ありとせんに一人にして或は鉄を煆煉し或は細條を造り或は仕上ケを爲す等の事を始終一人にて之を爲さは鉄を煆煉するの間は後の道具は無用にして細條を造るに及んては前の道具は無用となるのみならす其工を移すの際に時間を徒費し又之を仕上

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

けするに及んでは益々道具の無用と時間の消失を多からしむるの損失あるを免れす然るに之を分業すれは是等の損失は更になく工事益々精に趣き而して其易き研磨の如きは女子の手にても充分に爲し得らるべくして其成功に至ては却て非常の進歩を見るへし西洋工事の敏活なるは多くは之か爲めなり故に如斯諸工業に分業法を實施すれは工事平等に行渡り女子の如き軟弱なるものも相應に職を得て從て徒食の數を減し國家の富を増加すると蓋し疑なし

(4)女工品評會を設立する事、人の職業を爲すや其己か爲す所の職業を愛するの心なきときは遂には倦厭して等閑にするの心を生して退歩するを免れす然るに此の情を抑制して益々之を重するの心と之を榮譽とするの思想を懐かしむるには盛に女工品評會の如き者を設立すると實に肝要なり婦人には各々負惜みの氣性を有するものあるを以て各自の手になる所の品を評査して是を甲乙すれは精ハ益々精ならんとを欲し粗は是に耻ちて次回に勝らんとを欲し次第に職業に精心を籠めて其職業を愛するの念も是より深くなるは蓋し疑なきなり故に博覽會の如きも日本の婦女子は職業上に於ては未た幼稚なるを以て特別に製品の陳列を許可して之を奬勵せは其奮發も亦從て大にして職業を愛するの心是より盛にして業を執る者の益々多きに至らんと蓋し火を見るより明からんか

(5)勞動の制限を確定する事、我國の諸職業に從事する者を見るに時間を徒費すると尤も甚きの弊あり今是を擧くれは彼晝寐と稱へて陰暦四月八日より八月八日迄の間正午より午後二時迄午睡するの弊と喫烟雜談の爲めに悠々光陰を徒費すると普通一般の事なり今此無用に消失する所の時間を計算するに先つ一日平均二時間つゝ午睡なるの間は四ヶ月間にして百二日となり之に二時間を乘すれは二百四十時間となり又た喫烟雜談の爲めに消失する時間を一日平均一時間つゝとすれは一年三百六十五日則ち三百六十五時間にして此合計六百〇五時間となるへし之を我執業時間一日平均十時間つゝと見積れは實に六十日と五時間の消失となるへし僅か一年三百六十五日の間に六十日の損失を爲す不經濟も亦甚しからすや故に今日之か制限を定むるの肝要なるとは予輩の言を俟たずして明なり今外國工事の有樣を示さんか爲めに米國紐育領事館の報告に伊太利製糸工女の實況を記せるものゝ中より要旨を摘載すれは曰く

工女は毎日午前五時に其業を始め八時に至りて朝飯の爲に十五分を停業し正午十二時に午飯を喫す午後一時に至りて更に機械の運轉を始め仝十時迄休息せす而して夕飯は業務の間隙を見計ひて適宜に是をなす是を一日の執業とす

今一日の執業時間を算ふるに朝飯午飯の時を除きて十五時四分の三たり斯くなすと一周六日間なれは勞動時間は九十四時間半なり而して土曜日の午後十時に至れは婦人及小女輩は多く各自の家に歸りて更に次の月曜日午前第五時の就業時間前に必す職場に來るを例とす然れとも十英里乃至十五英里（我四里乃至五里）の住家の遠方に在る者は土曜の夜家に行くを得さるを以て手足の疲勞にも拘らす日曜の早天に銘々包物と給金とを携へて歸宅し而して翌朝第五時の始業時間に後れさらんか爲め該夜再ひ其家より歸りて寐るを常とす

去れは彼の勞働は既に十二分の極度に達して殘る所なきも我の勞動は猶幾許の餘地あるを免れす勞動は實に萬物を生產するの根源にして即貧富の判るゝ處あり然るに我既に此の緊要なる勞動の競爭に對して伊國に數等を讓らさるを得す豈勝を必すへけんや云々

右は尤も下等なる女子の職業を取る有樣を記せし者なれとも其他の工業に於ても一日の執業は大抵是に準したる者なりと云是を聞くに付けても我國に於ては早々右の弊習を改め殊に女子をして此等の餘弊を受けしめさる樣一定の時間を定めて工業の盛隆を計らすんはある可らす

(6)婦人を要する諸會社を盛大にすると、日本女子に職業を與へんとするには有志の者率先して是を導くにあり女子は未た自ら進んて其業に就くの力なきもの多きを以て盛に女子を要する諸の會社を組織して之を誘導すると實に肝要なり今其諸會社を求むれは大抵左の如し

婦人を要する職業會社の概畧

- 養蠶場を盛大にする事
- 製糸場を盛大にする事
- 木綿紡績場を盛大にする事
- 製茶場を盛大にする事
- 製紙場を盛大にする事
- 機業會社を盛大にする事
- 引火奴製造を盛大にする事
- 等

(1)養蠶は婦女子の業には至極適切にして就中上品なる職業なり今や殊に士族の授產に養蠶を恰好なる產業と認めて奬勵ある趣に聞ゆ實に此機會は失ふ可らさる時にして斯業の盛大と女工の增殖を計るは實に此際にあり而して此養蠶なるものは桑葉の摘取より蠶兒の施桑等一として女工の才に相應ならさるはなし故に益斯業の盛大を計りて國力の養成と共に女子に產を授けは蓋し一擧兩得の策とや云はん

(2)製糸は我國輸出品中錚々の位置を占得する者にして殊に養蠶の盛大を計る以上は製糸場の盛大も勢ひ密着して離る可らさる者にして殊に女工には最倔強なる職業なり世間有志の者先導馴致して其業の益々巧妙ならしむるとを務むるは必要欠く可らさるの事業とや云はん

(3)木綿を紡ぎ機業の原料を饒多にして女工を盛にし其製出を殖し彼輸入品の一なる金巾唐糸類の爲めに年々外國へ向て飛行く巨萬の黄白を抑へ該會社を起して其製造を務め內地の需用を滿足して其餘れるものは却て我より輸出を計り前に失せし巨萬の黄白を取戻して國の富饒を計るは只に女子授產の爲めのみならずして國家の爲め有志の最も務むべき事業なり

(4)製茶の需用は頗る多額にして年々輸出する產額の如きも製糸と伯仲するは人皆知る所にして從て是を產するの場所も少からす故に右產地に製茶を盛大にして摘葉は勿論茶揉其他の雜業に至る迄多く女工を使用して婦人の職業を饒多にせんと殖產家の任とや云はん現に予か鄉里に於ては製茶に女工を使用するとは數年の經驗にして之を實施する決して難事たらさるを知るへし

(5)製紙の業も近時世の開明と共に著書新聞雜誌等其他日用上に紙類の需用をして益々多からしめたるを以て該製造の繁昌

も亦往時の比すへきにあらすして現今藁紙製造等の各地に行はるゝを見ても需用は日々に增加するの勢あるは明了被ふへからさるの事實なり此等の業も中人以下の女流には適當なる者にして格別の勞力を要するともなく楮皮の扱より漉方揃方等に至る迄皆女子の手術に至極適切なるものにして多くの女工を要する一事業なりとす

(6)機業の一事は往古は吳服綾服と稱へて女子手術中の鏘々たるものなり糸繰地拵より織方に至るまて皆格別の勞力を要する者にあらすして只根氣を專とそる者なるを以て女子の性質には至極相應なる職業なり近時斯業も次第に繁昌を來し需用は日に月に增加するの勢ありて彼金巾の輸入すら猶抑留する能はさる程なり故に一層斯業の盛大を計り我國經濟に一の光輝を添へすんはあるへからず

(7)引火奴の製造も追々廣りて各地に之か製造塲を見るに至れり是等も猶一層の盛大を計りて外國の輸出を務めさる可らす而して其手術に至ては甚た簡易にして假令は箱を糊封する藥味を附着する杯女工に任するに至極相應の授產と云ふへき者なり

婦女子を要する工業の種類猶種々あるへしと雖とも以上は其尤も主なるものに就て女工の增大と物產の蕃殖を計り則ち國家の經濟上より婦人授產の法方を論述せし要領なり今之を約言して其結了の要旨を集むれは蓋し左の一表に外ならずとす

敎育
- 女子の敎育を奬勵する事
- 小學女生徒に職業を嗜の風を習はす事
- 女子師範學校を擴張する事
- 有志女學校を盛大にする事

婦人授產策
- 女子職業學校を設立する事
- 產婆學校を盛大にする事
- 看病婦學校を設立する事
- 風俗の改良
  - 財產分配法を行ふ事
  - 金錢貯蓄を奬勵する事
  - 結婚年齡を二十年後と改むる事
  - 未婚の女子に相應の職業を敎ゆる事
- 注意盡力
  - 都鄙の女工場を盛大にする事
  - 諸工業會社に分業法を實施する事
  - 女工品評會を設立する事
  - 勞動の制限を確定にする事
  - 婦人を要する諸會社を盛大にする事

右表の如く敎育の力、風俗の改良及ひ注意盡力の次第に依て婦人に授くへき職業の從來我國に行はるゝ者の概畧を示せは蓋し左の如し

婦人に適する職業の類別
- 學術
  - 著述　看病婦
  - 女敎師　保姆
  - 產婆醫　等
- 裁縫
  - 男女衣服の仕立　刺繡
  - 西洋服の仕立　押繪
  - 足袋股引類の仕立　等
- 飼養
  - 養蠶
  - 蜜蜂の飼養
  - 牛乳搾り
- 手術
  - 製糸　紡績　苧紡　機業　組糸
  - 眞田紐　羽織紐　飾紐工　紙紐工　下駄緒　引火奴
  - 製茶　種紙　製紙　本綴　綴卷　造花
  - 玩具　竹器　笠傘　元結　水引　菓子
  - 小間物細工　麥稈細工　畫細　製粉　編類　等
- 勞動
  - 農業　行商
  - 運送　等
  - 仲買
- 雜業
  - 洗濯　諸雇
  - 婢
  - 小間使　等

通信女學講義錄　第一卷去十五日發兌

◎朝野新聞評　通信女學講義錄は彼の女學の進步に熱心なる女學雜誌の主筆巖本善治氏の整理する所にして既に一家の見あるとなりて家の事万端に忙はしき婦人の學校に入りて就學する能はざる者の知識を進めんとの親切に依りて發行する者なれば家事に追はれて學校に出入する能はざる婦人方は一本を購ふて他人に後れざる樣勉強ありたし

●每日新聞評　此卷は女子生理、育兒心得、文學一斑、萬國史略、西洋女禮、問答叢話等に分ちて孰れも簡易明暸に說き頗る婦人の獨學に適切したる良雜誌なり尙ほ每月一卷つゝ發刊して家內經濟、女藝案內、理學一斑、其他有益の件を逐々記載して諸科講述の終りし後は更に高等の學課に移る筈なりと云ふ

○右講義錄一冊二十錢郵送稅を要せず半年前金一圓也

第四回點取文成績

女學雜誌社

第四回點取文題(日本婦人數人)に對し各文を寄せられたる者都合十四通中女流の手に成る者四通あり點撿の後左の三氏を甲乙丙の受點者とし各預定の賞酬を呈す

甲點　信濃諏訪郡長池村　中山[illegible]井子
乙點　伊勢多氣郡八木戶村　小竹啓[illegible]郎
丙點　越後西頸城郡糸魚川　吉岡[illegible]

第五回點取文題

女學雜誌社

妓樓存廢論

右は我國妓樓の存廢の可否を論じ若し之を廢すべしとならば併て之を廢止するの策を說き若し之を存すべしとして何ほど更に現行の制度を改良するの點ありとせば亦併て之を論ずるに在り而して答案は可存論と可廢論との二種に分ち双方に甲乙丙の受點者を置く即ち調査の上甲點を受る者は女學雜誌三十冊を呈し乙點を受る者は同二十冊を呈す

右答文〆切時日を來る六月三十日と定む右日限後に到着する者は[illegible]遺憾點撿の中に取めず　東京新橋日吉町女學雜誌社

頌榮女學校

本月八日定期試驗を結了せり依て更に生徒數名を募る學科は米國女教師並に本邦教師數名を以て英學並に普通學を教授す有志の人は本月中に申込あれ　芝區白金猿町五十三番地

明治三十年四月十二日

明治女學校新入生徒募集

定期試驗濟に付來る十八日より新入生徒の入校を許す

東京九段坂下公園地内
樹木鬱蒼神水明清の邊

明治女學校

編物類御注文次第仕候

手袋、手首袋、帽子、シャツ、其外いろ〳〵御需めに應じ申候

東京市ヶ谷田町二丁目二十一番地　坂井

演說著作材料新誌　第一卷

右は材料新誌第一號より八號に至る八冊を合して一卷とし使用の便を圖りたるものなり本誌のよく文人論客の需むる所に應ずるに足ることは今別に言はず

・右新誌・號づゝの散本も尙ほ殘餘有之に付見本入用の方は一部代價として郵券十錢を送らるべし

東京新橋日吉町八番地　女學雜誌社

產婦小兒 攝生法

船越鼎太郎君著　(新著)　一冊十八錢郵稅四錢

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を斟み專ら當今の養生法其道を盡さゝることを教へたり故に月經の心得より、妊娠したるか否やを知ると、出產の期日を知る法、妊娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ、乳を飲ませする間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごと〳〵く親切に教へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の生子を誤りて取扱ひ玉ふやうのことなからんを希ふ

(出版兼發賣)　新橋日吉町八番地　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○特に我姉妹に告く

本誌に向兩三回國民之友の日本婦人論を掲載すべければ幸に愛讀を玉へ

●定價一冊八錢郵稅一錢府內無稅見本一冊郵券十錢●

●半年六冊四十五錢一年十二冊八十四錢府外ハ郵稅ヲ要ス●

第三號本月十五日發兌

政治社會經濟及文學之評論

國民之友

本誌目錄○國民之友●在野の志士に望む所あり

日本婦人論　第一回　火を以て火を救ひ水を以て水を防く

時事評論●二十年度歲計豫算表●海軍擴張●歲計節用の効如何●敢て四百万圓の費途を問ふ●民も亦窮す矣●所得稅出でたり●聖詔を捧讀して感あり●海防費の献金●北海道水產稅●湖島の事件●長崎事件の結局●甚しひ哉●佛教の衰へたる●新奇なる二大會社●立憲改進黨の集會●舊自由黨の諸氏將に大阪に會せんとす●東京は第二の巴理●黑田伯の歸朝近きに在り●露帝の凶報●歐洲の形勢○特別寄書●醉人之寄書（中江篤介君）●國家組織の基礎（植木枝盛君）●井上圓了氏の佛教活論序論を讀む（高橋五郎君）○雜錄改進黨の大演說會●明治十九年基督教信徒の統計●伊藤伯海防費の演說を讀む●新日本卷之二●落葉の掃きよせ●擬人の夢▲敍事文範▲其他諸近著の批評○論說●人之權理

●本社ハ前金ニ非レバ雜誌ヲ送ラズ爲替ノ向ケ所ハ赤坂郵便局●

●郵券代用ハ郵便爲替無キ地ニ限リ一冊一錢ノ割增シ●

東京府赤阪區榎阪町五番地

發行所　民友社

米國ケレー氏著○巖本善治君譯

女之未來

定價三十錢（新版）

東京神田雉子町　與論社

（大取次）女學雜誌社

發兌

四月。二日　九日　十六日　廿三日　三十日

五月。七日　十四日　廿一日　廿八日

六月。四日　十一日　十八日　廿五日

七月。二日　九日　十六日　廿三日　三十日

定價

一冊。五錢　郵稅。一錢（但府內無郵稅）

十冊。四十八錢　郵稅。十錢（同前）

半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢

一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

廣告

一行一回（廿七字詰）前金拾錢

同三回以上　一割引

同六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町闘々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新銀町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄕區元富士町盛春堂○同本鄕區春木町二丁目解明堂○東京本鄕四丁目文壽堂○橫濱住吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緣町石壽堂○上州高崎田町燒平堂○勢州松坂家里初枝

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8, HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō, Japan.

東京京橋區日吉町八番地

發行所　本局　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐